



# With you

ウィズユー

日本UNHCR協会ニュースレター

No.7 2005年 第4号



## 目次

- パキスタン大地震被災者支援 2
- スーダン難民に緊急支援を！ 3
- アフリカ難民に水を！ 4
- アフガン帰還民支援
- 絵本の紹介 / 支援者の声 / 5  
ご寄附の方法いろいろ /
- アンジェリーナ・ジョリーさん  
世界人道活動賞を受賞
- ケニアのカクマ難民キャンプ視察報告 6

日本国連HCR協会は2005年9月1日より  
ユー・エヌ・エイチ・シー・アール  
 日本UNHCR協会と名称変更しました。

JAPAN FOR  UNHCR  
 The UN Refugee Agency

# パキスタン大地震被災者支援 UNHCRも緊急援助活動

「パキスタンは30年近く、世界でもっとも多くの難民を受け入れてきた。常にわれわれUNHCRのすぐそばで支えてくれた。今こそパキスタンに恩返しをするときだ」  
ウェンディ・チェンバレン副高等弁務官(10月26日)

**10**月8日午前8時50分(現地時間)すでに多くのマスコミ報道にありますように、パキスタンでマグニチュード7.6の大地震が発生し、その後800回の余震が続きました。カシミール地方を中心とする広域で、350万人の人々が何らかの被害を受け、180万人が家を失いました。11月初めの時点でパキスタン国内の死者が7万人を超えたとの報道がありました。難民支援が本来の職務であるUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)ですが、今回の大地震でも、国連の一員として発生直後から緊急援助活動を開始しました。昨年12月のインド洋大津波に続き、自然災害の救援活動は例外的ではありませんが、UNHCRの半世紀におよぶ緊急援助活動の経験が、皆様のご支援を支えられて活かされています。

長年アフガン難民を数多く受け入れてきたパキスタンで、UNHCRは25年以上にわたり活動してきました。現在も11カ所の事務所で約400人がアフガン難民350万人の帰還支援などに従事しています。パキスタンで暮らす約90万人のアフガン難民も被災しました。10月10日には第一便として、パキスタンのペシャワールにある備蓄倉庫から医療用大型テント21張、家族用テント1400張、ビニールシート1万1000枚、調理器具1万1000

セット、石鹸2万2000個などの救援物資を送り出しました。その後、アフガニスタン、アラブ首長国連邦、デンマーク、トルコ、ヨルダンなどにあるUNHCRの備蓄倉庫から救援物資を輸送しました。またパキスタン当局に協力し、被災地域に12の避難民キャンプを設営しました。

援助物資の空輸にNATO(北大西洋条約機構)加盟各国(トルコ、フランス、ギリシア、イギリス、デンマーク、イタリア、アメリカ)が積極的に輸送機を提供し、10月末までに約2000トンの救援物資を運ぶことができました(毛布23万2000枚、テント2万張、ビニールシート8万3300枚、水汲み容器3万3000個等々)。

パキスタン大地震の被災者支援に、国連の合同緊急アピールは当初3億1200万ドル(約359億円)が救援活動に必要とされていましたが、10月26日には5億4560万ドル(約627億円)に上方修正しました。そのうちUNHCRが当面の6カ月に必要とする予算も2200万ドル(約25億円)から3000万ドル(約35億円)と修正されました。11月1日時点では、日本政府からの100万米ドル(約1億1500万円)を含む570万ドル(約6億5000万円)\*しか確保されておらず、そのうちの500万ドル(5億8000万円)はすでに使われました。

被災地域、特にカシミールの高地では冷え込みが厳しく、地震で家を失った人々は少しでも多くのテントや毛布を必要としています。また次の緊急事態や他の援助プログラムのために、今回の緊急援助で空っぽになったUNHCRの備蓄倉庫を補充する必要もあります。

すでに日本UNHCR協会を通じてご支援をお寄せくださった皆様に心から感謝申し上げますとともに、この世界規模の救援活動に一人でも多くの方々がご協力くださいますようお願い申し上げます。

\*11月28日時点で1274万ドル。



負傷した娘を運ぶ父親 UNHCR / B. Baloch



チャーター機で到着した救援物資 UNHCR / B. Baloch



北部辺境州の被災者キャンプ UNHCR / B. Baloch



救援物資を受け取り笑顔の戻った被災者 UNHCR / B. Baloch

10月8日以降の「緊急ファンド」をパキスタン大地震被災者支援に充当しています。

## パキスタン大地震被災者支援

ご支援ありがとうございました。

ご寄附: 円 件数: 件

\*2006年第1号でご報告させていただきます。ご了承ください。



地震でけがをした男の子 UNHCR / B. Baloch

# スーダン難民に緊急支援を！

2003年春頃よりスーダン西部のダルフル地方でスーダン政府の支援を受けているといわれる民兵(ジャンジャウィード)がアフリカ系住民の村々を襲撃しています。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は、ダルフルの国内避難民約200万人と隣国チャドに逃れたスーダン難民約21万人を保護しています。その一方で、20年以上続いたスーダン南北内戦が2005年1月に終結し、それに伴うスーダン難民の故郷への帰還も支援しています。



## ダルフルのキャンプ襲撃される

不安定な状況が続くスーダン西部のダルフル地方で、再び治安が悪化し、民兵による村への襲撃や誘拐、待ち伏せなどが再発しています。たとえば9月28日には約300人の民兵が西ダルフルのアロ・シャロー国内避難民キャンプを襲撃しました。民兵はキャンプの1/4にあたる約80の仮設住居を焼き払い、これによって数千人の避難民がキャンプから逃げ出しました。この襲撃により34名が亡くなりました。

多くの村々が襲撃されたダルフル地方ですが、避難民キャンプが襲われたのはこれが初めてです。UNHCRをはじめNGOなどの援助活動にも影響が出ています。UNHCRは2004年6月からダルフルに3つの事務所を開設し約80名の職員が、避難民保護にあたってきました。UNHCRのような国連機関が存在し、地域を巡回することが民兵の襲撃を抑止することにもつながります。しかし、UNHCRは5~6つの事務所をあらたに開設しようとしていますが、資金不足のため計画通りには進みません。その一方で治安の悪化のため、西ダルフルから一部の職員を一時的に移動せざるを得ませんでした。アントニオ・グテーレス難民高等弁務官は「このような治安の悪化が続くなら、国際社会は絶望的な状況で支援を必要としている多くの人々を助けることができない」と憂慮しています。



襲撃されたアロ・シャロー避難民キャンプ

UNHCR / J-B Molard

## チャド東部のスーダン難民

ダルフル地方と国境を接するチャド東部には、民兵の襲撃を逃れた約21万人のスーダン難民が12カ所の難民キャンプで生活しています。チャドの地元民は当初スーダン難民を温かく迎え入れ、貴重な食料や水を分け与えました。しかし、世界でもっとも貧しい国のひとつといわれるチャドにとって増え続けたいえに長期化するスーダン難民の受け入れは限界に達しています。また援助物資が届き始めた難民キャンプと地元民との間に軋轢が生まれるようになりました。



UNHCR / G. Le Breton

チャド東部で地元のリーダーになるのが必要か調査するUNHCR職員

UNHCRはこのような状況を考慮して、チャド東部のスーダン難民支援の予算の5%をチャド地元民支援に充当し、即効性のあるプロジェクトを行っています。WFP(世界食糧計画)やユニセフ、チャド政府の協力を得て、食糧や水の支給、学校教育や職業訓練を提供しています。たとえば、チャド地元民の貴重な備蓄食糧が底をつかないように、7~9月の雨季に入る前には、成長が早いソルガム(穀物の一種)の種を支給しました。

## スーダン南部の帰還支援

20年以上続いた南北内戦のため難民となってスーダン国外に逃れていた約50万人と国内に避難していた約45万

人が故郷に帰り始めています。しかしスーダン難民が帰る地域の多くはインフラ(社会基盤)が整っておらず、帰還民の受け入れが難しい状況です。たとえば、スーダン南部のヤリという人口2万2000人の町は今年になって2万8000人に膨れ上がりました。UNHCRはせっかく故郷に戻った人々が再び避難する必要がないように、学校や診療所の再建などを支援しています。夏に当地を訪問したグテーレス難民高等弁務官は、教育のことを考えて学校のある難民キャンプに子どもを残して帰還した母親や、二度と家族と別れ離れにたくないと言う10代の少女の話聞き、「富める国々のリーダーにアフリカの人々の生活環境を改善するためにもっと努力するよう伝えます」と約束しました。



UNHCR / M. Pearson

南スーダンのイエイにある学校。南北内戦が終わり学校に通えるようになった子どもたち



UNHCR / M. Pearson

自立するためにUNHCR提供の職業訓練でミシンを習う帰還民

### スーダン難民支援

ご支援ありがとうございました。

ご寄附： 円 件数： 件

\*2006年第1号でご報告させていただきます。ご了承ください。

# アフリカ難民に水を！

現在スーダンのダルフール地方から21万人以上の難民が逃れているチャド東部で、給水および衛生担当として活躍するUNHCR職員、アブドゥー・M・ダンジョーさん(UNHCRアベシエ事務所)のインタビューを紹介します。

Q. 難民となって逃げてくる人々はどのような状態ですか？

A. 突然、民兵に村を襲われ、ほとんど何も持たずに逃げてくる人ばかりです。逃げる途中、水はなかなか手に入りません。何日も歩き続けて疲れ切っている上に、やっとチャド東部に逃げ出しても、最初の頃はキャンプも給水設備も整っていませんでした。女性たちは家族のために4～6時間もかけて水を汲みに行かなければなりません。実は水が確保できるかどうかは治安の問題と密接に関連しています。遠くまで水を汲みに行く女性たちは水の利権を巡って地元民と衝突することもあります。そして何よりも民兵に襲われるかもしれない危険に常にさらされているのです。遠くまで水を汲みに行かなくても済むように、難民キャンプの給水事業は非常に大切なのです。

Q. 水が不足するとどうなりますか？

A. 体が弱り病気に対する抵抗力がなくなります。安全な水が確保できないと、生きるために泥水でも口にしてしまうの

で、その結果、ひどい下痢を起こします。下痢をすると脱水症状が進み、ついには死に至るという悪循環に陥ります。

Q. 水不足に起因する他の問題は？

A. 水がないと衛生状態が悪くなります。つまり、食器や身体、衣服、そして手さえも洗えませんから。伝染病の原因になります。難民の栄養状態を改善するための貴重な野菜も育てられません。仮設住居を作りたくても、水がなければ日干しレンガのもとになる泥や粘土も作れません。このまま水が不足すれば、水を巡って難民と地元民との軋轢が増しますし、多くの人が死んでしまいます。

Q. UNHCRの給水事業にとって何が一番大きな障害ですか？

A. チャド東部自体がもともと非常に水の少ない地域ですから、水が確保できる場所に難民キャンプが設営できません。この辺は岩盤質で水を含む層が全くないのです。キャンプによっては井戸ではなく、トラックで水を運んでいますが、トラック輸送は非常にお金がかかります。



井戸の深さを測るUNHCR職員(チャド)

©UNHCR

高価な給水トラックが必要です、運転手を雇わなければなりません、毎日長距離を走るガソリン代、砂漠地帯を走るためメンテナンスも大変です。トラック輸送に頼っているキャンプでは、他のキャンプより難民に支給できる水の量は少ないのです。もっとも深刻な問題は資金不足です。もっと資金があれば、トラック輸送を増やすこともできるでしょう、パイプラインを敷設して遠くから水を供給することもできますから。このままではすでにある井戸も枯渇してしまいます。地下水が枯渇すると貴重な緑も枯れてしまいます。

Q. 支援者の皆様は何を伝えたいですか？

A. このまま水不足が続くともっと深刻な人道危機となります。この状況を少しでも改善するために皆様のご支援が必要です。

## アフリカ難民に水を！

ご支援ありがとうございました。

ご寄附： 円 件数： 件

\*2006年第1号でご報告させていただきます。ご了承ください。

## アフガン帰還民支援 故郷にもって帰るもの...

皆様のご支援に支えられて、2002年以降、パキスタンやイランから帰還したアフガン難民は計350万人に上ります。2005年は9月末までに40万人を超えました。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は住宅再建だけでなく、故郷で順調に再定住できるように、各種の支援を行っています。

モハメッド・サリークさんは隣国イランで難民として暮らしていました。昨年サリークさん一家は6人の子もたちとともに、UNHCRの支援を受けて19年振りにヒンデークシュ山脈近くの故郷に帰りました。

「私は教育を受ける機会がありました。だからこそ子どもたちにも勉強して欲しいのです」と話すサリークさんですが、この地域の学校はかなり離れている上

に、男の子しか入学できません。サリークさんは思い切って自宅で、難民キャンプで教育を受けた18歳の長女パルウィーンを先生として、6～18歳の女子に勉強を教え始めたのです。女子教育に否定的な地域の慣習を考慮して、最初は「コーランの勉強会」と称して始めた教室は、今では100人以上の男女の子どもたちが通うようになり、16歳の次女ナスリーンとサリークさん自身も勉強を教えています。

しかし、私利私欲のないこの無料教室が、サリークさん一家に大きな財政的負担を強いているのは事実です。「学校は人道的な意味でも非常に大切です。子どもたちのこの熱心さを見たら、今さら止められないですよ」と話すサリークさんに、UNHCRは数百冊のノートや鉛筆を



勉強を教えるナスリーン・サリークさん

UNHCR/T. Irwin

提供し、石鹸などの日用品も支給しました。授業が終わって子どもたちが帰る後姿をいつも見届けるパルウィーンさんは、故郷に帰ってきて、故郷の人々のお役に立てて本当に良かったといつも満足げに微笑むのでした。

## アフガン帰還民支援(住宅再建)

ご支援ありがとうございました。

ご寄附： 円 件数： 件

\*2006年第1号でご報告させていただきます。ご了承ください。

前号でホームページに掲載するとお知らせした記事が載せられませんでした。お詫び申し上げます。

### 学校で難民問題を勉強しませんか？

日本UNHCR協会は、子どもたちにも難民問題を知っていただきたいと願っています。ぜひ「総合学習の時間」などで取り上げていただき、子どもたちが故郷を追われた人々のことを知り、同じ地球人として何ができるかを一緒に考えていただければ幸いです。参考資料をお送りしたり、講師派遣も可能です。どうぞお問い合わせください。03-3499-2450 school@japanforunhcr.org

絵本の紹介

## 『ほんのすこしの勇気から — 難民のオレアちゃんがおしえてくれたこと』



本書は、戦争が起きている国から転校してきた難民オレアちゃんと隣の席になった「わたし」が「ほんのすこし勇気」を出すことで、次第に心を通わせていく物語です。人の痛みを感じられるあたたい涙とやさしさにあふれた作品です。6月20日「世界難民の日」を記念して刊行されて以来、各地で好評を博しています。本書に以下のようなコメントが寄せられています。(敬称略)

「やさしい気持ちになりました」

緒方貞子(元国連難民高等弁務官)

「この本を読んで、みんなにもっと知ってほしい、世界のこと、自分のこと、そしてみんなの幸せのこと」

菊川怜(UHCRスペシャルサポーター)

「ひとりの歌手として、ひとりの人間として心がゆさぶられました。僕も、勇気を出していきます」 森 進一(歌手)

「子どもたちに『たのしい』と『うれしい』をあたえるには、おとなの『ゆうき』が必要なんだね」

ホンジャマカ・石塚英彦(タレント)

「これは、泣けます。けれど単純に『泣けます』では終わらせることができない、深いものが脈々と流れています」

石井英和(書店員・23歳)

久保純子アナウンサー朗読による本書の貸出用DVDもできる予定です。本書を通じて、多くの人々が難民問題への理解を深め、支援の輪がさらに広がっていくことを願っています。

本書の印税はすべてUNHCR協会を通して、難民援助活動に寄附されます。

●お問合せ (株)求龍堂 TEL 03-3239-3381

## 支援者の声

10月以降、パキスタン大地震の被災者支援にたくさんのご寄附をいただきました。振込用紙の通信欄にありました皆様からのメッセージをご紹介します。

復旧には時間がかかりそうですが冬はすぐそこ。救援物資が確実に困っている人々の手元に届きますように。テントも早くしてあげてください、お薬も、必要なものすべて……。

(京都府 橋川篤子様)

世界が平和で戦争や災害のない日が一日も早くきますことを願っています。私達一人一人の心の持ち方を大切にしたいと思います。

(石川県 阿良田明子様)

編集部：被災者への想いや、援助職員への励ましのメッセージをいただきました。全部ご紹介できず申し訳ありません。ご支援をありがとうございました。

## ご寄附の方法いろいろ

### 日本UNHCR協会は UNHCRの公式支援窓口です。

UNHCR協会では、以下の方法で常時ご寄附をお受けしています。ご寄附は寄附金控除の対象となります。

#### 毎月倶楽部

恒常的資金不足にあるUNHCRにとって、毎月自動引き落としによる継続的なご寄附は非常に心強く、年間を通して手数料を節約することもできます。適宜お寄せくださるご寄附に加えて、ぜひご協力ください。ご希望の方には申込書をお送りします。

#### 郵便局

振込手数料はUNHCR協会がお支払いする「加入者負担」です。

郵便振替口座：00140-6-569575

加入者名：UNHCR協会

「HCR協会」とプリントされた古い振込用紙も引き続きご利用いただけます。

#### インターネット/クレジットカード

ホームページでお申し込み後、郵便局やコンビニでお振り込みいただける用紙がお手元に届きます。あるいは、銀行振込やクレジットカードによるご寄附も可能です。

[www.japanforunhcr.org/gokifu.html](http://www.japanforunhcr.org/gokifu.html)

#### 銀行

UFJ銀行 青山支店 普通口座 5251034

\*2006年1月以降、「三菱東京UFJ銀行」に変更される予定ですが、支店名・口座番号に変更はありません。

#### 三井住友銀行 渋谷駅前支店

普通口座 3478195

口座名(・共通)：UNHCRキョウカイ銀行からのお振り込みは、お名前の一部しか表示されません。手続きの際、登録IDをお持ちの方は依頼欄にID番号・お名前の順にご登録ください。登録IDをお持ちでない方は、受領証やニュースレター発送のため、別途、お名前・住所・電話番号をお知らせください。遺贈および相続財産のご寄附

遺贈や相続財産のご寄附をご検討の方は当協会にご相談ください。パンフレットをお送りします。

## UNHCR親善大使アンジェリーナ・ジョリーさん 世界人道活動賞を受賞

授賞式のジョリー親善大使  
©UNA-USA / K. Morishima



UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)親善大使アンジェリーナ・ジョリーさんが10月、アメリカ国連協会と国連経済人会議が選ぶ2005年度の「世界人道活動賞(Global Humanitarian Action Award)」を受賞し、ニューヨークで授賞式が行われました。ジョリー親善大使は

パキスタンや旧ユーゴスラビア、スーダン、チャドなど20カ国以上の難民キャンプを訪問し、自ら難民の置かれた状況を肌で感じてきました。

授賞式でジョリー親善大使は、「難民となった人々は多くの痛みを感じ、辛い経験をし、そして普通なら堪えられない

ような多くのものを失いました。しかし、彼らは、わたしたちが日常で忘れてしまっているような生きる喜びや小さなことへの感謝の気持ちをもっているのです」と話しました。

そして、「世界のどのUNHCR事務所でも、一生懸命働く人々とそのため疲れ果てた人々がいます。私がとくに素晴らしいと思うのは、性別や国籍を問わず、多くの職員が困難にある人々を助けるといった共通の目標に向かって一致団結していることです。これこそ国連のあるべき姿です」と述べました。

### 6月20日「世界難民の日」—2006年度イベント募集のお知らせ

キャンペーン期間(4月~7月)の登録イベントとして、難民写真パネル展、講演会、学習会、上映会、チャリティーイベント、街頭募金などをホームページでご紹介いたします。「世界難民の日」関連イベントを日本各地で企画しませんか。皆様からのご連絡をお待ちしています。登録イベントの募集要項はホームページをご参照ください。[www.japanforunhcr.org](http://www.japanforunhcr.org)

# ケニアのカクマ難民キャンプ視察報告

## スーダン難民の帰還

日本UNHCR協会 常務理事・事務局長 榎川勝也



一生懸命勉強する子どもたち



スーダンは日本の約7倍の面積をもつアフリカ最大の国で、人口は約3300万人です。スーダンの南部地域では、これまで21年にわたり内戦が続き、約200万人の人々が犠牲となり、約52万人が難民として、周辺国7カ国(中央アフリカ共和国、コンゴ民主共和国、エジプト、エリトリア、エチオピア、ケニア、ウガンダ)に逃れています。

1956年のスーダンの独立以来、北部のアラブ系イスラム教徒と南部のキリスト教徒との対立が第一次内戦に発展し1972年まで続きました。その後、1983年に再び北部政府側と南部キリスト教徒によるスーダン人民解放運動・軍(SPLM/A)との間で内戦が始まり、2005年1月の和平合意まで続きました。この和平合意により、周辺国に避難していた難民の人々は故郷に帰還できることになりましたが、永年の紛争により国土が崩壊しており全ての面で新しいインフラ(社会基盤)の構築が必要です。

こうした状況の中、約7万人のスーダン難民の人々が生活しているケニアのカクマ難民キャンプを訪問し、難民の人々が帰還に向けてどのような思いをもっているのか、またUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)を始めとする国際機関が難民の帰還に向けてどのように計画しているのか、そして、日本のNGOがどのような支援をするかを考えるため、9



自動車エンジンの職業訓練

月4日から9日まで、アジア福祉教育財団難民事業本部(RHQ)主催の「ケニアにおけるスーダン難民の調査」が実施されました。日本UNHCR協会の他、ジャパンブラットフォーム、難民を助ける会、日本紛争予防センター、日本国際ボランティアセンター、BHNテレコム支援協議会が参加しました。

ケニアのカクマ難民キャンプは、首都ナイロビから北西900km、スーダンとの国境から約135kmの所にあり1992年に設営されました。当初、難民は約2万2000人でしたが、2005年1月現在、8万6000人です。その中でスーダン難民が6万5000人(75%)を占めます。ソマリア(約20%)、ウガンダ、中央アフリカ共和国、コンゴ、エチオピア、ブルンジ、ルワンダからの難民の人々も生活しています。

今年2005年1月の和平協定の締結後も、8月までの間に、治安、食糧、教育の不足が原因で、約6000人のスーダン南部からの新しい難民がカクマ難民キャンプに逃れてきています。2000年にスーダン南部から逃れてきた19歳の青年が今年、自分の姉とカクマ難民キャンプで再会したと話してくれました。

UNHCRは、約9万人の難民の保護と援助(井戸、テント、家の材料、調理器具、医療、小中学校教育)を行っています。またWFP(世界食糧計画)が食糧の支給を援助しています。UNHCRのパートナーとして欧米の10のNGOが、幼稚園、青少年教育、職業訓練、女性の自立支援、HIV/AIDS対策、環境教育(改良かまど、野菜作り、緑化)等の活動を行っています。特に、青年たちに対する職業訓練、スポーツ、民芸品制作などの活動を通して自立する人間の育成、また小中学校の先生の養成などスーダン南部の国造りのための人材を育成しています。病院や学校の開放、安全についての相互協力など地域社会の発展に寄与しています。

カクマ難民キャンプで生活しているスーダン難民のうち、帰還を希望している人は80%を越えており、実際、訪問中に話をした難民の青年や女性たちは、スーダン南部における治安、生活の

インフラ、教育、職業などに不安があるものの、自分の故郷に帰りたいたいという人々がほとんどでした。

スーダン南部への帰還は雨季が明けると11月頃から、自主帰還が本格化し、UNHCRは当初の数カ月間で約5000人の帰還を想定していますが、全員の帰還までは約4年を要すると考えています。グテーレス国連難民高等弁務官が8月末に、カクマ難民キャンプを訪問し、帰還については自主帰還が原則で強制ではないことを確認し、スーダン南部は新しい国造りのためのインフラの構築が必要であり、そのための国際社会の支援を要請しました。

内戦によりスーダン南部の国土は荒廃しており、UNHCRは、地元政府、国際機関、NGOと協力して、地雷除去、道路建設、水・井戸、衛生・医療、学校などのインフラの構築や、帰還民や国内避難民が地元社会と共生・融合していくためのさまざまな支援を行います。UNHCRのパートナーとして欧米のNGOがさまざまな分野で活動していますが、今回の訪問を機に、日本のNGOも今後積極的に進出することが計画されています。

スーダン難民の人々は、やっと故郷に帰還できるようになりましたが故郷は破壊されて何も無い状態です。難民の人々が、困難を乗り越え、未来に希望を持って生きていくことができるよう、これからも皆様のご理解とご支援をお願いいたします。



トラックで難民キャンプに向かう人々  
写真撮影：筆者

認定NPO法人 日本UNHCR協会  
[国連難民高等弁務官事務所(UNHCR 国内委員会)]  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70  
国連大学ビル(UNハウス)6F  
TEL: 03-3499-2450 FAX: 03-3499-2273  
Eメール: info@japanforunhcr.org  
ホームページ: http://www.japanforunhcr.org

「With you」No.7 2005年 第4号(12月)  
発行人: 赤野間征盛  
編集: 榎川勝也、中村恵、井上清治、奥平章子  
デザイン・製作: 榎ポイントライン